

国立公園

— National Parks —

Nov. 2017
No.758

■ 自然公園とツーリズム

National
Parks
of Japan



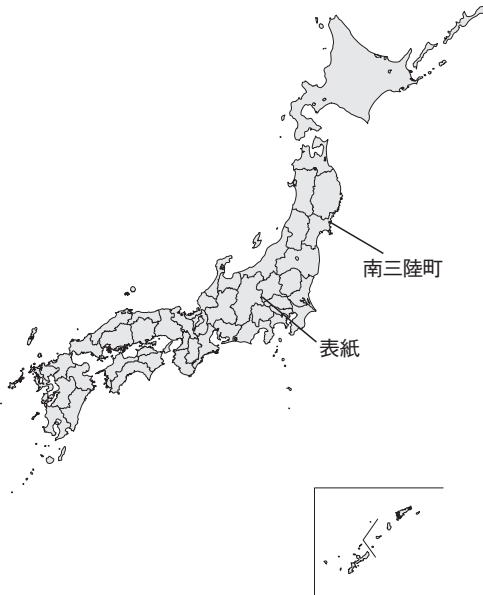
一般財団法人 自然公園財団

CONTENTS

国立公園

2017年11月号No.758

National Parks No. 758 November 2017



今月のテーマ：自然公園とツーリズム

今月のテーマのねらい

- 「自然公園とツーリズム」…………… 荒牧まりさ 2
- ・自然公園とエコツーリズム…………… 真板昭夫 3
- ・国立公園とツーリズム…………… 中尾謙吉 7
- ・国立公園におけるエコツアーの役割…………… 松田光輝 10
- ・公園利用についての考え方の変遷…………… 阿部宗広 13

トピックス

- ・サトウの愛した風景地の再生
～英国大使館別荘記念公園整備事業の概要～…………… 仁平康介 17

最近の研究から

- 国立公園行政史の研究（二）…………… 田中俊徳 21

技術情報

- BSC（バイオロジカル・ソイル・クラスト）を活用した
植生の自然侵入促進工法…………… 加藤靖広 25

わがまちの自然公園

- 南三陸町…………… 佐藤 仁 27

レンジャー便り

- 体力と行動力は最低限の素養である…………… 新村 靖 29

環境省ニュース…………… 30

自然公園財団ニュース

- 鳴門公園の遊歩道管理と自然…………… 井上雅仁 32

南三陸町



南三陸町長 佐藤 仁

南三陸町の概要

南三陸町は宮城県の北東部にあり、リアス式海岸が連なる三陸復興国立公園の南部に位置する。平成一七（二〇〇五）年の市町村合併（志津川町・歌津町）を経て誕生し、町の面積は一、六三四・四km²、東西と南北の距離はともに一八kmである。町の東側は太平洋に面し、北・西・南の三方を山に囲まれている。中央部には、西に深く入り込んだ志津川湾（表紙内側写真上）が広がり、その沿岸は小さな岬と入江を繰り返す複雑な自然環境を作り出している。山々を連ねる稜線が町境となり、当町に降った雨水は当町の森や里を經由して当町の海へ流れ込む。つまり、流域が町域という大変珍しいまちである。こう

した、森と里、海が水を通じてつながり近接する独特の地形は、林業や農業、漁業をはじめとする生業の基盤を形作りながら、長い歴史の中で地域の文化を育んできた。平成二三年三月一日、未曾有と言われる東日本大震災が当町を襲い、これによって甚大な被害を受けた。その後、復旧・復興を指し、多くの方々のご支援をいただきながら、町民一丸となって厳しい現実立ち向かってきた。震災から六年あまりが経過した今、ハード事業の復興も目に見えるかたちで進み、ようやく発展の兆しが見えてきている。当町では、「森里海ひと いのちめぐるまち南三陸町」を町の将来像に掲げ、自然と共生する町づくりを目指したソフト面での復興にも力を注いできた。ここでは、現在進め

ている志津川湾のラムサール条約湿地への登録準備について触れ、主に湾内の自然環境の特徴と魅力をご紹介します。

ユニークな自然環境

一・志津川湾の藻場

平成二二年九月、志津川湾は環境省が選定する「ラムサール条約湿地潜在候補地」に選ばれた。冷たい海を代表するコンブ類のマコンブ（写真上）と、暖かい海を代表するコンブ類のアラメ（写真2）の藻場が共存する貴重な自然環境であることが選定の理由である。志津川湾はマコンブの分布南限に近く、アラメの分布北限に近いことから、常に両種のまとまった藻場が見られる。さらに、ホン

森里海ひと
いのちめぐるまち南三陸町



写真1 マコンブの藻場

ダワラ類の藻場（表紙内側写真右上）が分布することから、湾内で三タイプの高藻藻場が見られる。海藻種群の多様性も高く、これまでの調査から一八〇種を超える海藻が湾内で確認されているという。こうした生物多様性に大きな影響を与えている要因の一つに、南三陸沿岸を流れる海流がある。古くから、三陸沿岸は世界でも有数



写真2 アラメの藻場

の漁場として知られてきた。その所以は、暖流と寒流が混ざり合うダイナミックな海洋環境にある。南から流れる暖流の「黒潮」と、北から流れる寒流の「親潮」、さらに、日本海を北上する暖流の対馬海流が津軽海峡を東に抜け、その後三陸沿岸に沿って南下する「津軽暖流」の三つの海流の影響をバランスよく受けているのである。そうした物理的な環境を背景に生物の多様性が育まれ、ユニークな自然環境を形作っている。

さらに、バリエーションに富んだ海藻藻場の分布も大きな特徴として挙げられる。海藻類は、永い進化の歴史の中で陸から海へ生活の場を移した一風変わった種子植物で、海中で花を咲かせ結実する。

志津川湾には、アマモをはじめとする四種類の海藻類の藻場が分布する。砂地を中心にそれぞれの海藻類が織りなす海中の草原は大変見応えがある。浅い砂場や岩場にはそれぞれ違った種類の海藻の藻場を見ることが出来る。また、環境省と宮城県のレッドリストで絶滅危惧種（絶滅危惧Ⅱ類・VU）に指定されているタチアマモ（表紙内側写真右下）は、水深一〇mを超える深い海底にも成育し、草丈が七mにも達する世界最大の海藻類だ。こうした海藻・海藻の藻場の多様性から、志津川湾は環境省が選定する「日本の重要湿地五〇〇」にも選ばれている。海藻類は、東日本大震災に伴う大津波で生息域の砂が流失したことで分布域が狭まったとされているが、その後確実に回復傾向にあるという。

二、コクガンの重要な越冬地

志津川湾では、震災以前から毎年一〇〇―二〇羽ほどのコクガン（写真3）の飛来が確認されている。コクガンは国の天然記念物に指定されており、さらに、環境省と宮城県のレッドリストでは絶滅危惧種（絶滅危惧Ⅱ類・VU）にも指定されている希少種で、その個体

数は世界に七千羽ほどと言われている。ガン類の中では唯一海域で生活する変わり者らしく、海藻類の葉や海藻のアオサ類を食べるベジタリアンである。東日本大震災に伴う大津波の直後でも、人気のない岸壁でコクガンの群れが何食わぬ顔でエサを食べる様子が確認されている。深い湾に由来する穏やかな環境や十分な休憩場所、および餌の供給源となる海藻・海藻藻場の安定した存在は、コクガンが安心して越冬するための環境条件を十分に満たしているのだろう。藻場は、ウニやアワビ、魚類をはじめとする磯根資源（磯に根付いて生活する水産業に重要な動植物）を育む重要な存在である。藻場を保全することは、コクガンをはじめとする水鳥たちの生活域を守ることにもつながる。コクガンは、自然の恵みを未来へつなぐ象徴的な存在として位置付けられるだろう。



写真3 コクガン

これからの町づくりに向けて

当町では、志津川湾の豊かな地域資源を保護・活用することを念頭に、次回のラムサール条約締結国会議（二〇一八年一〇月ドバイで開催予定）での湿地登録を目指し準備を進めている。震災後、全国・全世界の方々から多大なご支援をいただいた。これらのご支援に対する感謝の気持ちは決して言葉で言い表せるものではない。南三陸町独特の自然環境を守りながら活かし、豊かな恵みを次の世代へとしっかりと引き継いでいくこと、さらには町の自然の魅力を広く世界に発信していくことが、皆様からいただいたご支援への恩返しにつながるものと考えている。

佐藤 仁 ● さとう じん
 昭和二十六年（一九五一年）二月二十四日生まれ。
 一九七〇年 三月 宮城県仙台市立仙台商業高等学校卒業
 一九九二年 二月 旧志津川町議会議員に当選
 二〇〇二年 三月 旧志津川町長に就任
 二〇〇五年一〇月 志津川町と歌津町が合併
 二〇〇五年一月 初代南三陸町長に就任（現在三期目）